

飼料用トウモロコシの新奨励品種

畜産試験場

1 取り上げた理由

市販されている飼料用トウモロコシの県内適応品種の選定を行い、総合評価をしたところ優秀な品種が見出されたので、普及技術とする。

2 普及技術

1) 県内に適応する飼料用トウモロコシとして、パイオニア 122日 (32K61) を奨励する。

2) 主な生育特性および形態的特性は以下のとおりである。

- a 絹糸抽出期はパイオニア3358 (P3358) より1日、スノーデント125Z (G4742) より2日程度早く、黄熟期はP3358より5日、G4742より7日程度早い125日クラスの晩生種である。
- b 生育初期の伸長はそれほど大きくないが、葉幅の拡大と葉鞘部の充実度が高く、頑強である。
- c 草姿はアップライトタイプであり、稈長は高く、上位葉の葉量が豊富である。
- d 雌穂の着生する節の直下の節間が短く、耐折損性については極強、耐倒伏性も比較的強い。
- e 雌穂のボリュームは並みで、形状や粒列について優れ、不稔割合が小さい。
- f 上位の葉量が多いため下位への光量は比較的少なく、密植適応性は並みである。

(特性一覧)

品 種 名	早晩性	絹 糸 抽出期 (月/日)	黄熟期 (月/日)	播種からの単純積算気温		
				出 芽	絹糸抽出	黄 熟
パイオニア 122日	晩生	8/ 5	9/17	115	1,690	2,730

注) 播種日は5月12日に設定

品 種 名	初期 生育	稈長	着雌 穂高	乾雌穂 重割合	耐倒 伏性	耐 病 性			
						葉枯病	黒穂病	紋枯病	根腐病
パイオニア 122日	○	長	中	○	○	○	◎	◎	

注) 凡例：◎－優れる，○－普通～やや優れる，△－やや劣る，×－劣る

3 利活用の留意点

- 1) 播種時期は、日平均気温が10℃以上になり、晩霜の恐れがなくなった頃をめやすとし、遅れないようにする。
- 2) 県内全域で栽培できるが、10a当たりの栽植本数は6,500本以内に収めることが望ましい。

(問い合わせ先：畜産試験場草地飼料部 電話 0229-72-3101)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間 飼料作物・牧草適応品種の選定 平成10～11年

2) 参考データ

表1 パイオニア 122日の収量性

年次・区分	10 a 当たり収量(kg)			乾雌穂重 割合(%)	収穫まで1日当収量(kg/10a)	
	生草	乾物	T D N		乾物収量	T D N収量
1 0	5,883	1,699	1,177	50.4	13.1	9.1
1 1	5,996	2,290	1,579	51.0	18.5	12.7
平均	5,940	1,994	1,378	50.4	15.6	10.9
慣行品種平均	6,470	1,777	1,230	50.7	13.7	9.5

表2 パイオニア 122日の形態的特性と安全性

年次・区分	初期生育指数	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	稈径 (mm)	ごま葉枯病指数	紋枯病 個体率 (%)	根腐病 個体率 (%)	雌穂不稔 (%)
1 0	7.0	302	143	16.3	2.3	13.3	1.0	1.0
1 1	5.0	268	127	15.2	4.5	4.2	0.5	0.0
平均	6.0	285	135	15.8	3.4	8.8	0.8	0.5
慣行品種平均	6.5	257	127	15.9	2.3	21.9	1.9	2.9

注) 各指数は9を極良とする評点法による

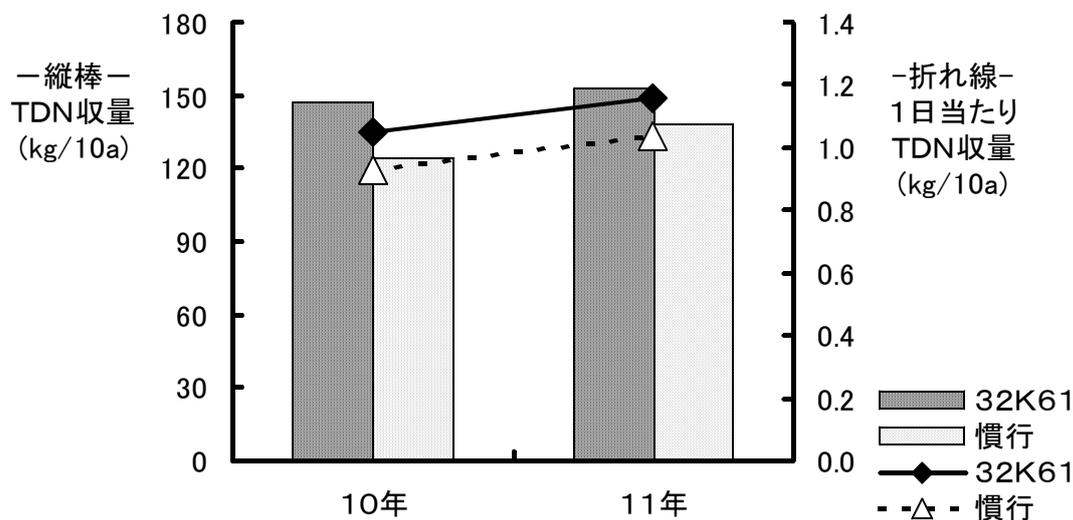


図1 東北3県(岩手, 福島, 宮城)の調査成績

◎ このトウモロコシの栽培で, 慣行品種に比してT D Nにして180kg程度の増収が見込め, T D N 1 kg当たり費用価を, 推定4～7円削減できる。

3) 発表論文等
なし